

「天塩川下流汽水環境検討会」 設 立 趣 旨

天塩川は我が国の最北を流れる大河川で、下流部では大きく蛇行しながら利尻礼文サロベツ国立公園の南端沿いに流下し、北海道らしい雄大な自然が残されています。この下流汽水域は、自然河岸にはヨシ群落が生育し、汽水性の底生生物や魚類、鳥類など多様な生物の生息・生育環境を形成し、オジロワシやオオワシなどの渡りの重要な中継地にもなっているほか、河口部は全国有数のヤマトシジミの産地でもあります。

一方、汽水域においては、捷水路工事による河道の直線化や浚渫により多様な河岸が減少するなど、過去の様々な営為の影響により河川環境が変化し、悪化してきております。

こうしたなか、平成9年に改正された河川法に基づき、平成19年10月には「天塩川水系河川整備計画(大臣管理区間)」が策定されており、この河川整備計画の基本理念としては、『天塩川水系の有する河川環境の特性に配慮し、必要に応じてミティゲーションの考えを取り入れて、テッシヤサケ・サクラマス、イトウ、シジミ等を育む天塩川の有する自然豊かな環境の保全、形成に努める。』こととされています。その実施にあたっては、『天塩川下流の汽水域においては、かつて有していた汽水性の水環境や多様な河岸などの河川環境を回復させるための取り組みを実施するなど、関係機関等と連携して、多様な生物の生息・生育環境の保全や整備を図る。特に地域にとって重要な漁業資源であるヤマトシジミの生息環境については、関係機関等が連携して天塩川本川、サロベツ川、パンケ沼など汽水域の良好な河川環境の保全や整備に取り組むとともに、かつてシジミが生息していた旧川の活用に向けた調査検討など、その保全や整備に向けた取り組みを積極的に進める。』こととされています。

このため、天塩川本川下流における汽水環境の回復を目指す天塩川下流汽水環境整備計画(案)を策定するために、河川環境に関し学識経験を有する方や天塩川下流域に知見の深い方々の意見を聴取するための「天塩川下流汽水環境検討会」を設立するものです。